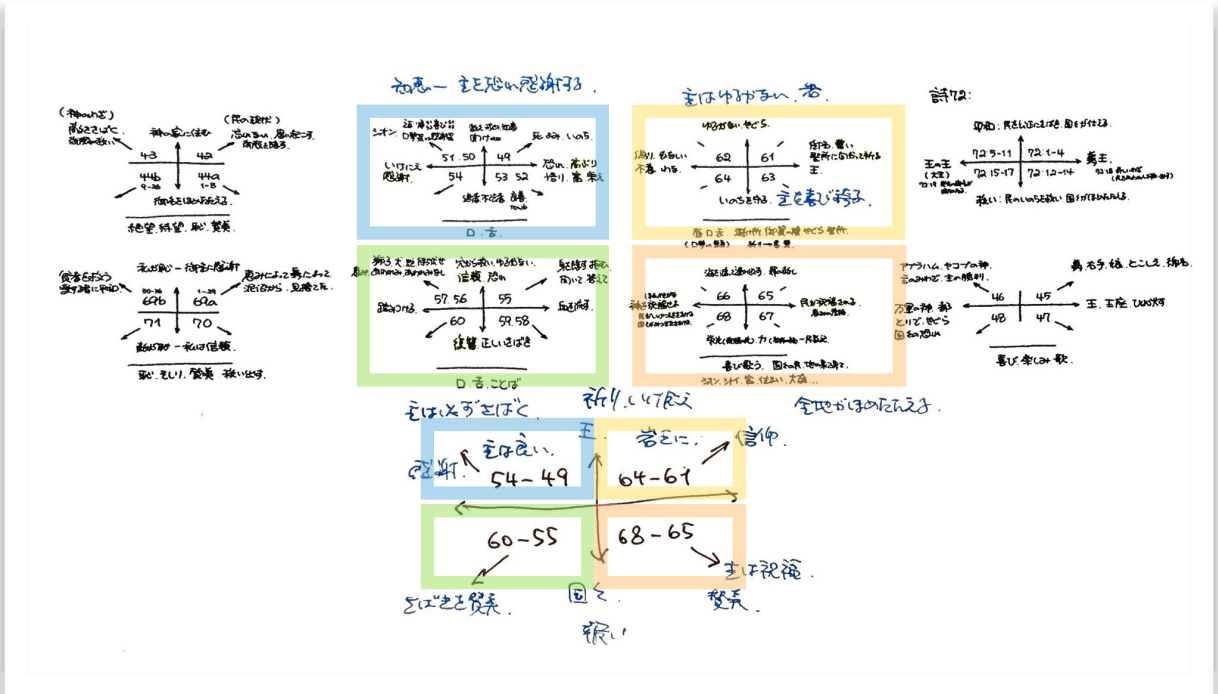
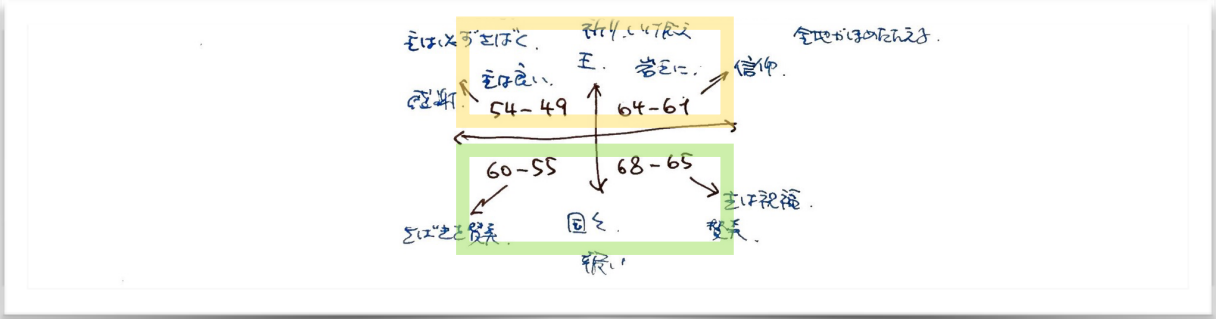
詩篇第二巻

詩篇49-68篇



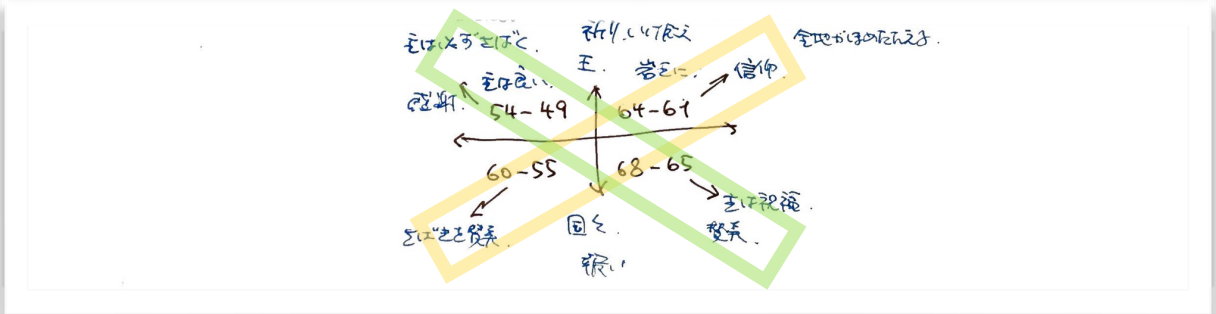
詩篇第２巻。詩篇第2巻を8つの段落に分けて、それぞれの並行をみていましたけれど、さらにその8つの関係をもう一度確認すると…。もうひとつ上の段階です。3、4、5、6の段落です。49篇から、55篇から、61篇から、65篇からこの４つの段落をひとつのまとまりとして見て考えましょうということです。

たくさんありますので、ただ単にことばだけを比べてみようとしても、なかなか難しいですね。大きな流れを見るということは、その細かい並行のところをどんどん切り捨てていって、残った本当のすじ、あらすじのところを見なくてはいけないということです。他の段落と同じように、この4つにまとめたものの横のつながり、縦のつながり、斜めのつながりというのを見るということをしてください。



上のほう、半分から上の61篇からの段落と49篇からの段落。その共通点というのは、個人。国と国の対決というよりは、個人・王についての教えということです。王が祈る、王がいけにえを捧げるということ。

それに対して、65篇から、55篇からの段落は、国々が裁かれる、国々が主をほめたたえるということで、国、民についての教えが下側です。



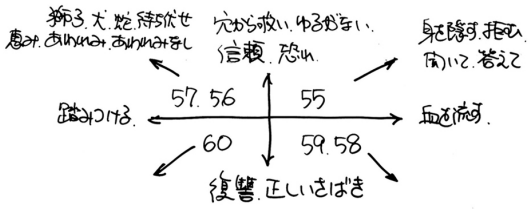
斜めでいきますと、61篇からと55篇からは、主に信頼します、主は揺るがない王である、その主に信頼しますということです。61篇からの段落は特に信頼する神様は岩なる王だということ。55篇からはその信頼している信頼を裏切らずに神様は全てを裁いて、国々、敵を裁いてくださるという信頼ということの二つの側面です。

49篇からと65篇から。ここは、感謝と賛美のつながりになります。49篇からのほうは、知恵、主を恐れること、主にいけにえを捧げることというようなつながりで、主は良いということについて感謝している。右側のほうは、主は民を祝福してくださるので、民も神様を祝福する。祝福し合うということで、主は良い、主は祝福を与えてくださるという並行で感謝と賛美ということがクロスしています。

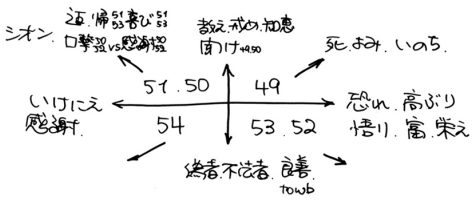
上のほう、王様についてと言っていたほうは、王に祈り求める、その声を聞いて祈り求める、そうするならば報いが与えられるというのが下の段です。こちら側(左下)は敵を裁いて復讐してくださる。こちら側(右下)は民が祝福され、国々も主をほめ称えるように変えられるというつながりがあると思います。

全体として、口、舌、賛美の唇、ことばの戦いがこの戦いの中心である。真理のことばと偽りのことばの戦いが、この第２巻の王の戦いの中心であるということが、口、舌、ことば、賛美ということがたくさん出てくることによってもわかると思います。

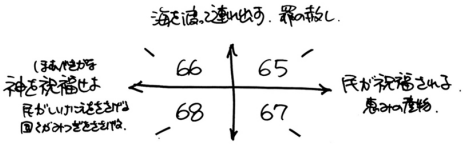
72篇や65篇から、42篇から69篇からのところと、そこに囲まれている中で王の都の戦いは何なのかということを教えてくれる段落になっています。



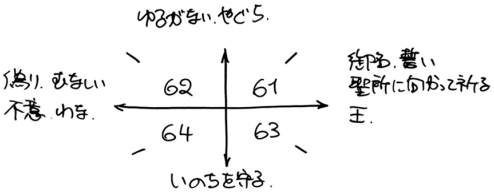
口. 舌. ことば



口. 舌.



喜び歌う. 国々の民. 地の果て果て.
シオン. シナイ. 宮. 住まい. 大庭...



辰. 口. 舌. 避け所. 御翼の陰. やぐら. 聖所.
(口撃vs賛美) 祈り→喜. 賛.